

# 米騒動 100 年、越中米騒動の今日的意味を考える

2018.09.15 to

## 1. はじめに

米騒動は 1918 年に新川地域一帯の各所で起こり、特に魚津の騒動が有名です。そんな米騒動が起こってから今年で 100 年目です。

とはいえ、米騒動にはあまり関心がないのが、普通の人かと思えます。少し普通の人を代弁しますと；

- ・米騒動 50 周年の時は何の記憶もない。
- ・米騒動の見直しに着手されたとかいっても。
- ・米騒動は魚津というから魚津のみで発生では。
- ・米騒動は漁民一揆。百姓一揆とおなじ。
- ・日本史勉強したが、100 周年で改めて存在を知る。
- ・いまさら何で。

ここにきて米騒動 100 年。にわか米騒動が取り上げられています。何故なのでしょう。何で今なのでしょう。かくいう私もひょんなことから米騒動の問題に関わり、ようやく米騒動の本質を考えることになりました。今では、米騒動が一体何であったのか、なにゆえ今問題にするのか、自分たちの今日の問題として捉えたいと思っています。

そんなノリで、「米騒動の何たるかを垣間見るとともに、米騒動の何が今日的に受け継ぐべきなのか」について、論文調論述や解説ではなくエッセイとして自己流で述べていきます。お付き合いください。

- 構成
- |          |               |
|----------|---------------|
| 1. はじめに  | 2. 米騒動とは、その実際 |
| 3. 騒動の意義 | 4. 今日的位置づけ    |
| 5. 受け継がれ | 6. 教育         |
| 7. 住民意識  | 8. おわりに       |



図1 富山県における米騒動発生地と救済事業実施地、文献2より

## 2. 米騒動とは、その実際

### 2.1 概要

米騒動 1918 年、富山県では、明治期、米商人が富山の安いコメを買い占め、県外で高く売って巨利を得ていた。1918 年（大正 7 年）政府のシベリア出兵を機にコメの投機的買い占めが始まり、米価が高騰した。日頃の米価高騰に苦しめられていた県東部沿岸地域の主婦たちが港に停泊のコメ運搬船へのコメ積み出し（写真 1）を阻止するとともに、米屋へはコメの廉売を要求し、役所には救済を要求した。これがたちまちのうちに全国に伝わり、各地で民衆が蜂起したが、軍隊によりすべての騒動が鎮圧された。

以降、米騒動が富山県内においてさえあまり扱われてこなかった。最近になってようやく県内で（のみだが）、米騒動の本質「世直し運動」を今日的に受け止めて活動する機運が高まりを見せてきた。

### 2.2 民衆が各地で立ち上がる

県東部沿岸地域一帯のそれぞれの地において主婦たちが自からの生活を守るために立ち上がり、これが米騒動となって社会に激震を与え 4 か月間続いた。

住民たちの行動は；（前出のとおり）

- ・地元米を他地域に移出させない
- ・米屋へは廉価での米販売を要求、移出停止の嘆願
- ・役所へは救済の要求



写真1 北海道や樺太に向け米の積み出し、文献2より

### 2.3 各地の米騒動 (図1)

米騒動は県東部沿岸地域にて 18 年 6 月頃から東水橋を皮切りに 12 月頃まで断続的に各地で起きていた。このうち、(米移出の)実力阻止がセンセーショナルだった騒動が 7/23 の 46 人参加の魚津のもの (写真 2,3) であり、一番大規模な騒動は 8/6 の 2000 人参加の滑川のもの (写真 4) である。

ここで水橋、滑川、魚津、黒部の地区で騒動の起こった月日(文献 2)を以下に記す。

西水橋 : 8/3 8/5、8/6

東水橋 : 6 月下旬～7 月初旬、7/20、8/4～6、

滑川 : 8/4～8/8、9/26

魚津 : 7/18、7/20、7/22-23、8/5-8/7、8/25

黒部(生地、石田) : 8/3-8/5、8/10

これより、騒動があちこちで、しかも何回も起きていることがわかる。これは、騒動が一か所で発生し他の地域に伝染していったというよりも、起こるべくして起こる状況が沿岸地域一帯にあったことを示唆している。

なお、普通の人には(他地域での騒動発生は知らず)魚津が発祥という捉え方になっているのは、魚津が滑川よりも先に起きたことにもよるが、魚津(人口 15,000)が滑川(人口 10,670)よりも町として大きく、県東部新川地域の中心地であったからであろう。

### 2.4 子どもや男性は何を

世の中の男性はどうしていたのか。事を起こしたのは女性である。これは男性が漁民として海に働きに出て行って、町にはほとんどでいなかったためである。女性は漁の後を守るのが仕事だから、男性は騒動が起きてても漁に出かけていたのである。

では、子どもはどうか。飲み子であれば母親が背中におぶり、子どもであれば村人が「裏山に一日中遊んで来い、帰ってくるな」と言って避難させていた(朝日の村(現朝日町)の住人談)。

### 2.5 救済事業 (図1)

民衆からの救済要求は米商や行政にむけられた。まず行政においては、対策が協議されたり、議会にかけて救済事業が制度化されたりして、廉売の指導があった。廉売に際して、地域の富裕層からの寄付金や財閥から等の富豪などからの寄付金があてられた。

次に米商については、窮状を見かねて率先して廉売に応じた米商もあれば、しぶしぶの米商や拒否の米商もあった。なお、拒否米商も最終的に廉売に応じたようである(未確認)。



写真2 魚津米騒動を知らせる富山日報 7/25、文献2より



写真3 魚津米騒動の事務所と倉庫  
十二銀行(北銀の前進)が米倉庫業(米保管)をも営む



写真4 滑川米騒動の米商店の米倉、文献2より

実施された廉売状況については、廉売価格や廉売対象区域などの設定に不備があったりして民衆に不満が残り、騒動の沈静化に時間を要したのではと思える。最終的には、行政による救済事業が所によっては翌年まで実施されて、問題が終結した。

### 2.6 行政の事前対処

行政側にとっては、騒動が起こってから救済事業を運用する事後対応ばかりではなく、騒動勃発防止の意

味合いもあって事前対応もしていたという。例えば、一部の行政では民衆向けに外米販売に尽力したという。

## 2.7 米騒動の報道

当時のジャーナリストが米騒動の本筋を伝えていた。彼らは、女性たちの立ち上がりに魂を揺さぶられたかのごとく、報道人として真実を伝送していた。しかしながら、一般通念として騒動はイコール暴動であったので、報道開始の時点から暴動という文言が入っていた。(県外では「暴動」といってもよいが、県内では「暴動」にあらず住民の抗議行動的性格であった。)

また、当時の情報のもとに描かれた米騒動の絵は、当然暴動としてリアルに表現されている(絵1)。すなわち当該絵では、漫画家の岡本一平氏(芸術家岡本太郎氏の父親)により、女性が米蔵から米を奪っていく様が描かれており、これが当時の教科書にも掲載されたことから、一般人に対して米騒動は騒乱と捉えられ定着していった。米騒動は暴動であり、一揆であるというイメージがこうしてより強固に作られていった。



絵1 岡本氏作の米騒動、  
文献2より

## 3. 騒動の意義、位置づけ

### 3.1 米騒動の本質

米騒動は人間が生きていくための不正や不合理を鋭く突いた直接行動であった。しかし、その後、米騒動は暴動と捉えられ、「米の争奪、人への危害、商家への放火」といった間違っただ認識がなされ今日に至っている。確かに全国的にみれば、米騒動は残念ながら暴動に発展したが、富山での真実は「奪わず、危害を加えず、放火せず」であり、あたかも非暴力主義に貫かれていたかのごとくであった。

こうした行動に対し時の政府は、軍隊を発動し米騒動を鎮圧し、一方では総理大臣(寺内総理)の首を挿げ替えて事の対処とした。

時代が下ってからは、米騒動は、婦人参政権獲得はいうに及ばず住民の直接行動で社会の不合理不条理に抗議をしたという前例となり、以降、民主主義の礎となった。

### 3.2 住民蜂起として

米騒動は、労働者階級・一次産業従事者の蜂起である、

として位置付けることもある。実際、富山においてもそのようなスタンスで米騒動を分析し学ぶ団体もある。そんな観点でいえば、米騒動は労働者階級とはいわないうまでも民衆一揆という捉え方もあり、江戸時代や明治時代の百姓一揆と相通じるところあり、ということになる。事実、国内全体では暴徒化して騒乱になったのではないか。そもそも騒動の特性は騒乱である、としている。

先ほども述べたように、富山の米騒動は、処分者もごく少数であったように、権力側に付け込まれないような運動であったようであり、とにかく米をよそにもっていくな、高く売るなといった率直な抗議運動であった。これを階級闘争の一形態と見るか、そうではないと見るかは社会をどう見るかのスタンスによることはいままでもない。

## 4. 今日的な位置づけ

### 4.1 我らの位置づけ

米騒動をどう位置付けて今の時代に受け継いでいけるかが今まさに問われてもいる。とはいっても、郷土史といった次元を超えて位置付けるのは、一般社会ではなかなか難しい。理由は、我ら多くは平生から長きにわたって批判精神が育たない教育を受けてきていたからであろう。

最近では、総合学習や郷土学習といった教育が幅をきかせてきているが、確かにものを知る上ではかかせないながらも、何か基本が抜けていませんか、といたたくもなる。これは何も初等教育の場ではなく高等教育の場でも似たようなことが起こっている。以降の当該節を参照されたい。

### 4.2 そもそも歴史の意味が

過去の重大事件や出来事に対して、何となく関心が低く、歴史ファンの範疇ですれどか、昔のことを知って何になるの、といった論調が如何に多いことか。歴史教育の弊害がここに現れていると見てよい。

これは何のことは無い、事の本質を知る上で批判精神が不要となれば、歴史的事実を並べても面白がるのは歴史ファンだけということになってしまう。歴史ファンにとっても、また開明的な方(事実を知ろうとする方)にとってもとんでもない迷惑かつ不合理な話ではないか。

それにもう一つ教育の弊害として困ることには、世の中の歴史観があり、ごく一部の人が好んで日本歴史観を捻じ曲げて、正しい歴史にいちやもんをつけ、あたかも虚構歴史を楽しんでいるかのようにみえる。困

ったことである。

ところで歴史を知る意味とは何か。「温故知新」や「過去との対話」もいはいけれども「それは本来いかにあったのか」とか「現在は過去の結果であり、未来は現在の延長である」といった捉え方をしたいものである。

以上のように考えて、米騒動を昔の一事実に終わらせずにいきたいものである。

## 5. 受け継がれ

### 5.1 報道、今の時代にて

100年前、騒動の時代では報道人は真実報道・権力批判に燃えていたがゆえに、米騒動の真実が全国に伝わっていった。しかし今はどうか、ややもすると付度が横行するこの世の中、報道機関はどうなっているかといぶかる声が多いのも事実である。

そのようななかで米騒動100年を迎えた各新聞社は熱心に米騒動を伝えていたというのが印象である。

こうした問題はすぐに政治問題につながるゆえに却って自粛する傾向があるかと思っていた。また、米騒動は(権力に対して)無害化しているという見方もあるとのこと。それだけに、マスコミの取り組み姿勢には(種々の意味で)大いにびっくりしたところである。

ここで今一つ例として原発事故についてみよう。原発事故でも経済活動を憂いて付度していると思えないこの世の中であるだけに、これを乗り越えて某新聞社が主張を曲げず、各種団体も主張を曲げず、頑張っているのを見るにつけ、頼もしさを感じる程である。

### 5.2 米騒動の受け継がれ、運動会にて (写真5)

富山では運動会にて米騒動という団体競技種目がある。女性陣数十人が二手に分かれて、俵(ゴムタイヤで代用もあり)を奪い合うのである。不思議なのは、女性同士で俵の争奪。米騒動の時には女性は男性とぶつかったのであり、漁民の女将さん同士で争ったのではない。こんなところにも、騒動が娯楽的イベントに化している。



写真5 運動会における団体競技「米騒動」、文献2より

では、なぜ米騒動が種目になったのか。あらあらしい競技として男子には棒倒しがあるが、これの女性版として推進側の方が米騒動に飛びついたのでは。このことからしても今の社会、男女平等にあら女性蔑視が依然として続いていることを知る次第である。注1

## 5.3 普通に対応、知ることから始まり

かくいう私も、今になって米騒動に関心を持っているが、これまでは一地域の過去の事という捉え方であった。これは皆さん共通の思いではなからうか。だからこそ、100周年を節目に米騒動が何だったのかが問われ、風化防止と新たな発展が始まったのである。

今後に向けては、米騒動について今日的に問題を掘り起こし、かつ今日的に歴史事実を積み上げることになる。また、知ることの先にある知の活用があり、米騒動を契機に「この世の中、どうなの」と考えていくこともなろう。これは、楽しみ提供というアミューズであってもかまわない。

## 6. 教育

### 6.1 後世への伝え方、高校教科書にみる

後世への伝え方として高校教科書で米騒動がどう扱われているかをみよう。文献2を参考にすると、伝えなければならない事の本質が時代とともに揺れ動いていることがわかる。概して、今日的には米騒動の扱いは小さくさりげなくといった感じがする。以下、みていく。ただし、斜字体文は著者の感想である。

(1) 50年代:「米騒動が全国に広がる。米屋や高利貸しを襲う暴動。軍隊が出動し静める。」「騒動は生活苦から来た自然発生的なもの。18年に滑川町の漁主婦俵が口火を切る。直接参加は1300万人という。」

→原因明記だが襲うとある。

(2) 61年:「米屋を襲う」がこれまでの標記だが「米屋におしかけ」表記もあり。

→暴動とは捉えない姿勢が記述されるようにもなった。

(3) 92年:「おそわれ」や「おしかけ」の表記あり。「参加者は70万人超え。」→人数が上方修正か。

(4) 2011年:「米の安売りを求める運動が全国に広がる。政府は軍隊を出動させこれを鎮圧。」

→何のために、どこに向けて行動したのかが欠落。

### 6.2 倫理教育

一部の良心的な米商を除いて、米の適正価格販売をかなぐりすてて大儲けに走る米商。彼らには倫理もへちまもなかったのだろうか。今もその根本はそんなに変わっていないのではなからうか、といぶかる人も多

い。それだけに、世の中では倫理倫理と叫ばれていることに安堵を覚えたい。がしかし、安堵ができるのであろうか。初等教育では道徳教育があり、大学教育では経済人・産業人の倫理教育がある。

ここで大学教育について記す。大学における倫理教育では、この社会をどう良いように作り、育て守っていくのかという視点はみじんもなく、今あるシステムの運営ルールにのっとって、その範囲内で倫理を設定していくための教育としか見えない。企業コンプライアンスにしても、あれは企業を守るための策であって、世の中における企業の役割をいっている訳ではない。

また、倫理教育の実施に際しては企業人やOBを呼んで事に当たっているが、教える範囲は上述のような制約下にある。その点、ある老大学人が倫理教育を買って出て、経済性を乗り越える倫理から内部告発まで教えている。

## 7. 今の住民の意識には

### 7.1 米騒動について地域住民のとり方

全国に飛び火した米騒動は暴動そのものであったが、富山の米騒動はいわば食料騒乱であり、暴動ではない。しかし、富山もまた暴動としての捉え方が先行したために、民衆は負のイメージの米騒動から一線を画し、ダンマリを決めていたかのようにモノ言わずの状態であった。時代が下り、米騒動100年により歴史的な検証が進み、ここにきてようやく負のイメージからの脱却ができたのではなかろうか。

しかしながら、若者世代では、米騒動は遠い過去の一出来事にしかとられていないように見える。いわゆる無関心がみてとれる。

こうあってはいけないとして、小中学校向けに故郷教育で米騒動が扱われ、地域の世直し系団体とのタイアップで、子どもへの啓発が盛んになってきている。節4.1では厳しい論調にしたが、そんな教育に期待したいものである。

なお、魚津にはタテモン祭りがある。船の帆にみていくつもの提灯を縦横につらねて、そのひとつひとつに女性の名前を書いている。これは、米騒動で女性が立ち上がったことに敬意を表してのことなのかもしれない。

### 7.2 今日的な問題、政治へ

最近、政権政党がきな臭いことを日常化する政策をとり、ますます国民の生活を窮乏させようとしているのでは、との指摘が多い。ここは、やはり、そうした動きに猛然と抗議をしていかなければならず、その意味で

も国民の直接的抗議行動とともに国民を支援するジャーナリズムの果たす役割も大きいと考える。

しかしながら、民衆運動の小休止状態やジャーナリズムの権力対抗姿勢の弱まりも残念ながらみられる。だからこそ、米騒動の原点を思い起こして今後の運動を展開していくべきであろう。

また社会における身近な問題として関わる種々の分野で「おやっ、変だぞ」ということがあれば、背後に潜む本質をあぶりだし、改善に向けた行動が肝要と考える。

以上の二点を我らの今日的な問題として捉えたいものである。

## 7.3 観光資源として

米騒動発祥地域にはいくつもの米倉が現存している。これを富山の近代歴史遺産として保全していきたいものである。また、これを観光資源としてもっと活用してもいいのではなかろうか。米騒動100年を契機に、これまでの騒動というマイナスイメージが払しょくされたことであろうから、学習対象や歴史認識のよりどころとしても地元の取り組みに大いに期待したいところである。観光が通り一辺倒ではなく本質への接近とならば、この上ないことである。

## 8. まとめ

米騒動100年ということで著者なりにどう位置付けられたいのか、そんな視点で米騒動の本質と今日的受け止め方について論議した。その結果を纏めると；

### (1) 米騒動の本質

暴動ではなく生活を維持するための社会不正義に関して激しい抗議であったこと。ジャーナリストがことの本質をしっかりと見極めて権力に抗して全国に報道したこと。この2点が米騒動という直接行動の本質である。また主婦を担い手とした米騒動は一揆でなく「女性による世直し」(by 向井氏)と捉えたい。

### (2) 米騒動の今日的受け止め方

米騒動という世直しの心意気を我らの生活に反映させていきたい、そこには物事の本質をも極める姿勢や行動が求められ、歴史の本質をしっかりと認識するとともに枠を超えた倫理感が熟成することを望みたい。

(3) 今後については、なんといたっても今の盛り上がり先細りさせず発展させることが必要である、このためには、米騒動を語り継いでいくべきである。注2。

## ◆謝辞

本稿を纏め上げられたのは、米騒動のシボ・講演会・

展示会に参加・見学したおかげであり、各企画を精力的に進めておられる、向井氏(ジャーナリスト)、金澤氏(細川嘉六ふるさと研究会)、近藤氏(滑川市立博物館)をはじめ皆様には、記して謝意を表する。

#### ◆参考・引用文献

- 1)米騒動 100 年記念フォーラム; 米騒動 100 年記念フォーラム資料集、2018.6
- 2)滑川市立博物館; 米騒動 100 年---滑川から全国へ、滑川市立博物館、2018.7。 写真や絵は、  
表紙: 汽船への米の積み込み P20: 富山日報 7/25 の記事  
P26: 滑川米騒動の米倉 P29: 岡本氏作の米騒動  
P33: 富山県における米騒動地 P63: 運動会の競技「米騒動」

#### ◆注

##### (1) 運動会における集団競技「米騒動」

富山県が米騒動の発祥の地だから、米騒動の伝統が県内全域にあるように一般にはイメージされているが、実際は異なっている。滑川地域では確かに米騒動と称する競技があるが、他にはない。あるのは、多くの地域で実施の男子による米俵争奪戦であり、これにもし別名称をつければ「百姓一揆」というところである。

今一つ付け加えれば、1990 年代から 2000 年代まで続いていた富山県各種学校連合会主催の県下全体運動会では、女子学生による団体競技「越中米騒動」があり、多分に人目を惹くイベントの様相を兼ね備えていた。

##### (2) 100 年記念の意味と今後

米騒動は騒乱という捉え方が県内でもずっと続いていた。100 周年を迎える 2 年ほど前からは、県内でも米騒動は何であったのか、じっくりと検討し考えようという機運が高まり、100 年目には個人有志による記念フォーラムの開催やマスコミによる新聞・TV による数多くの報道により、「富山の米騒動は騒乱にあらず抗議行動」ということがここにきてようやく定着したといってもいいであろう。

しかしながら、100 年目の 9 月(米騒動の終焉時期)が終わった途端に、米騒動はほとんど報道されず、あちこちの団体による企画やイベントもなりをほとんどひそめてしまった。米騒動をたんなる過去の歴史的事実にするのではなく、風化を避けるためにも、語り継ぎが必要となっている。県東部新川地区では米倉の会などがその任を担って活動が継続しているという。今度は米騒動 150 周年に向けて、地道な発展が期待されるところである。